

教材名	心と心のおく手	教科書	日本文教出版（学研・教出）	学年	4年
内容項目	親切、思いやり	相手のことを思いやり、進んで親切にすること。			

内容項目のとらえ方
(子どもの実態を踏まえ)

相手が望むことをどう理解するのか、またそれに対してどういう表現、行動をとればいいのかを考えあい、「してあげる」という視点からの親切や思いやりでなく、どんな行動が相手に通じるのか考えたい。

授業の展開

子どもたちの活動	指導上の留意点
<p>1. おばあさんが「石につまずいて転びそうになった」までのストーリーを聞き、そのとき自分ならどうするかを考え、意見をだしあう。</p> <p>例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハッとするけど見守る感じ。 ・やっぱり、声をかけるかな。 ・見て見ぬふり。 	<p>教科書は開けずに、ストーリーを読んであげるか、プリントにしておく。その際に「おばあさんは片方の足が少し不自由で歩きにくそうだった」という部分は先に説明しておく。</p>
<p>2. あなたが声をかけたら、そのおばあさんはにっこり笑ってこう答えました。「ありがとうね。でも、家まですぐだからいいですよ。」そのとき自分ならどう思うかを考え、意見を出しあう。</p> <p>例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・役立てると思ってたのにちょっと残念。 ・もう一度「持ちますよ」と言ってみる。 ・「あっそうですか」という風にあっさり立ち去る。 ・家はどこですかと尋ねる。 ・せっかく手伝うって言っているのに、むかつく。 	<p>実際の場面を想定し、本音で答えていいことを伝えておく。</p> <p>おばあさんは「ぼく」の行動をどう受け取ったかも考えながら、それぞれが意見をだしあい、議論する。その中で、親切とは、おもいやりとは何かに気づくようになればと思う。</p>
<p>3. 「家に帰って～」から最後のページにある「おばあさんがむすめさんのところに着いたのを見届けて、家に向かって歩き出した」までのストーリーを聞いて、「ぼく」がとった行動に対してどう思うか、自分ならどういう行動をとるかを交えて考え、自由に意見をだしあう。</p> <p>例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・黙って後ろをついていくのはやはり少し変。 ・でもおばあさんが理解してくれているならいいかも。 ・横に並んで歩き、いろいろ話を交わすのもいいかな。 ・本人はハリハバリだし、むすめさんもいるので、放っておいても不親切ではない。 	<p>オープンエンドで終わる。</p>